

科 目 名
日本建築史 History of Japanese Architecture

1年 後期 2単位 必修

磯 田 桂 史

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(1), 1-(2)
 情報教育目標との対応：情報活用の実践力
 建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準 1 の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
B	—	建築総合コース	必修	22.5時間
	B 2	建築計画コース		
	d-1	建築構造コース		

【概 要】

日本の建築の歴史は、現代の建築技術者にとって必要不可欠な知識教養であるとともに、日本の今後の建築のあり方を考える際大いに参考になるものである。これまでの技術者が、例えば、夏期の高温多雨多湿、台風、地震等に対しいかに工夫してきたか等、様々な知恵や教訓を建築の歴史から読み取ることができる。この授業では、どのような社会背景の下で、どのような建築がどのような技術を使ってつくられ、それがどのように変化してきたかを、古代から近代初めまで、主として住宅、寺院、神社等について講義する。また、日本の建築は、古来、木造建築であったので、木造建築の技術についても、理解を深める。

なお、この授業は、学士課程共通の学習効果の「知識・理解」の「多文化、異文化に関する知識の理解」と「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」、情報教育目標の「情報活用の実践力」、建築学科専門プログラムの「建築や都市の成り立ちと変遷に関する基礎的知識を身につけ、時代の変化のなかでそのあり方を理解する」と「専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力」の「建築学分野の包括的な専門的知識・能力」の内容が含まれる。

【到達度目標】

- (1) 日本建築の歴史の流れを習得する。
- (2) 各時代の日本建築の特徴を習得する。
- (3) 木造建築の技術の大概を習得する。

【授業計画】

テ ー マ	内 容
① 日本の歴史と主な建築	日本建築史を学ぶ目的と本授業の概要を説明する。日本の歴史の概説と主な建築を説明する。
② 日本建築史の基礎知識	基本的用語、寸法の単位、木材の性質等の基礎知識を説明する。
③ 先史時代の建築、飛鳥時代の建築	竪穴住居等の先史時代の建築、法隆寺等の飛鳥時代の建築について説明する。
④ 飛鳥・奈良時代の建築 1	寺院の伽藍配置の変化、薬師寺東塔等現存する寺院建築、古代に始まったとされる神社建築について説明する。
⑤ 飛鳥・奈良時代の建築 2	寺院における塔の構造、藤原京等の都城について説明する。
⑥ 平安時代の建築 1	密教寺院及び浄土教建築等の寺院建築、その後の神社建築について説明する
⑦ 平安時代の建築 2	寝殿造りについて説明する。古代までのまとめを行なう。
⑧ 中世の建築 1	古代までの建築について中間試験を行なう。新たな寺院建築である大仏様、禅宗様について説明する。
⑨ 中世の建築 2	中間試験の結果について講評する。枯木の役割等中世の建築技術等について解説する。
⑩ 中世の建築 3	寝殿造りから書院造りに至る中世の住宅の過程について説明する。
⑪ 近世の建築 1	城郭建築、寺院建築、神社建築について説明する。
⑫ 近世の建築 2	書院造り、数寄屋造りについて説明する。
⑬ 近世の建築 3	近世の庶民の住宅について説明する。
⑭ 近代の建築	近代の建築について、明治初期を中心に説明する。
⑮ 歴史的環境の保存活用	歴史的建築の保存の意義、制度、現状等について説明する。授業全般のまとめを行なう。
⑯ 定期試験	授業全般の範囲について試験を行う。

【授業方法】

教科書及び配布資料に基づき解説する。ビデオ等ビジュアルな資料を活用し、理解を促進する。

【学習到達度の評価】

- 1) 授業中に適宜質問をして理解状況を把握する。
- 2) 中間に試験を行い理解状況を把握する。
- 3) 中間段階と最終段階で授業のまとめを行ない、理解を促す。
- 4) 中間試験及び最終試験後、講評を行ない、理解を促す。

【評価方法】

- 1) 定期試験60%、中間試験25%、レポート15%で評価する。
- 2) 全授業終了後、学生自身による自己評価を行う。

【関連科目】

- 2年：近代建築史
- 3年：建築設計製図Ⅱ、建築法規

【教科書・教材】

大田博太郎 監修「日本建築様式史」美術出版社
 適宜、資料を配布する。

【参 考 書】

日本建築学会 編「日本建築史図集 新訂第二版」彰国社

【履修上の注意】

日本建築史の前提となる日本の歴史について、興味を持ち、理解に努めることが望ましい。
 社寺仏閣の実例を見て、授業内容との関連を考えることが望ましい。また、木造建築の仕組みについても考えることが望ましい。

【オフィスアワー】

適宜、特に昼休み（12時から13時）に研究室において質問を受け付ける。